

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	サービス接遇資格（ビジネス能力Ⅰ）	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	ビジネスマナー（あいさつ、正しい敬語の使い方、ビジネス用語など）を身につけ、コミュニケーションスキルを向上させる。また、電話応対、ビジネス文書の作成の演習を通し身につける。	
授業の到達目標	講義と演習を通して、仕事に取り組む姿勢を理解するとともに、社会人として必要なビジネスマナーを身につける	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ビジネス検定ジョブパス3級公式テキスト、公式試験問題集	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	仕事への取り組み方	1
	仕事の基本となる8つの意識	1
	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	1
	報告、連絡、相談	1
	話し方と聞き方	1
	来客応対と訪問の基本マナー	1
	会社関係でのつき合い	1
	PC、電子メールの活用	1
	ビジネス文書	4
	電話応対	4
	統計データの読み方・まとめ方	1
	情報収集をメディアの活用	2
	日本経済の基本	1
	ビジネス用語	2
	スピーチ実習	4
	試験対策	4
	合計	30
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症ケア指導管理士Ⅱ	
実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症ケア指導管理士試験（初級）の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	試験対策としてポイントを各自復習	
使用教科書・教材・参考書	改訂版 認知症ケア指導管理士 公式テキスト他 練習問題配布	
授業上の注意点	用語などは都度確認しながら学習を進める	
授業計画（内容）	コマ数	
認知症ケアにおける社会資源 （医療保険制度、介護保険制度、公的年金制度、生活保護制度、成年後見制度と日常生活自立支援事業、高齢者虐待法、悪徳商法とクーリングオフ制度）		4
認知症の人に対する医療サービス・保健福祉施策		1
各種のインフォーマルサービス		1
地域における支援		1
認知症の医学的理解の振り返り		1
認知症の心理的理解の振り返り		1
認知症介護 ユマニチュード		1
試験対策		5
	合計	15
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ケア・コミュニケーション	
担当教員実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科 2 年	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	各ユニットの学習前に「学習前の30秒自己チェック」で自分の現状について確認する。基礎知識を学び、ケーススタディ、理解度チェック、演習で理解を深める。	
授業の到達目標	ケアのプロセスとしてますます求められる対人関係の感性と能力を磨くためのコミュニケーション力が理解できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	授業で学習したことを日常生活においても意識して活用してみましょう。	
使用教科書・教材・参考書	麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 「介護スタッフのためのケア・コミュニケーション」株式会社ウイネット	
授業上の注意点	演習には主体的に参加しましょう。	
授業計画（内容）		コマ数
介護におけるコミュニケーションを考える視点とその役割		1
好感・信頼感を高めるコミュニケーション1		2
好感・信頼感を高めるコミュニケーション2		2
敬意を伝えるコミュニケーション		3
被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援		3
苦情やクレームに対応する		3
わかりやすく説明し、同意を確認する		3
主体的な選択や行動を引き出す		3
チームの一員として仕事を進める		3
建設的でさわやかに対話する		3
視聴覚言語障害を持つ被援助者とのコミュニケーション		1
認知症の被援助者とのコミュニケーション		1
人生の最後を迎える被援助者とのコミュニケーション		1
振り返りとまとめ		1
	合計	30
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	メンタルケア概論	
対象学生	総合福祉学科2年生、社会福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	基礎心理学を中心にこころのメカニズムを知識として理解し、医療・福祉・教育・産業等での相談援助及び心理カウンセリング業務やコミュニケーション向上で求められる応用能力を培う。	
授業の到達目標	メンタルケア心理士又はこころ検定の取得を通してメンタルケアに関する知識を習得できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	検定試験対策問題の復習を行うこと	
使用教科書・教材・参考書	メンタルケア学会編集「メンタルケア心理士」 こころ検定対策問題集	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 学習ガイダンス、生化学基礎（染色体と遺伝子、たんぱく質、酵素、脂肪、炭水化物）	1 コマ
	2. ストレス学基礎（ストレスと身体の反応、心理学的研究）	1 コマ
	3. 解剖生理学 組織・器官、骨格・筋肉	1 コマ
	4.                    消化器系	1 コマ
	5.                    循環器・血液・リンパ系	1 コマ
	6.                    呼吸器、泌尿器、生殖器	1 コマ
	7.                    感覚器、内分泌系	1 コマ
	8.                    脳・神経系	1 コマ
	9. 生理心理学と認知心理学（感情、脳波、睡眠・夢、時間感覚、記憶）	1 コマ
	10. 薬理学基礎	1 コマ
	11. 精神医学の歴史	1 コマ
	12. 精神疾患の分類	3 コマ
	13. 発達心理学（発達課題、愛着の形成、アイデンティティの形成）	3 コマ
	14. 発達・睡眠・摂食・性格における障害	3 コマ
	15. 身体疾患と精神症状	3 コマ
	16. 薬剤論	3 コマ
	17. カウンセリング基礎知識	1 コマ
	18. カウンセリングにおける倫理	1 コマ
	19. 心理療法基礎	1 コマ
	20. ケーススタディ	1 コマ
	合計	30コマ
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援Ⅰ（生活経営）	
担当者の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	生活の構造や生活の質の評価の理解を深め、次世代や生活上の問題に直面している人々に対する支援を考えるとともに、他者に対する生活実践力を付与するための意識づけができるようになる。	
授業の到達目標	生活経営に関する基礎的な知識を習得し、生活問題に対する支援を考えることができる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各節末のワークシートを作成しておく。	
使用教科書・教材・参考書	中川英子編著「新版 福祉のための家政学—自立した生活者を目指して—」建帛社 国民生活センター「2019年版 くらしの豆知識」	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 家族の意義と機能	1コマ	
2. 世帯から見る家族の変化	1コマ	
3. 結婚・離婚・子育てをめぐる変化	1コマ	
4. 家族と法律（家族間の権利義務、相続と遺言）	1コマ	
5. 生活史（生活史の意義と効果）	1コマ	
6. 生活史の聞き取り	1コマ	
7. 経済と家計	1コマ	
8. 経済社会の変化と消費者問題	1コマ	
9. さまざまな手口を使う問題商法	1コマ	
10. 消費者のための法律や制度（安全に関するマーク、洗濯表示、クーリングオフができる取引）	1コマ	
12. 生活時間と家事労働	1コマ	
13. 社会的ネットワーク（子育て・介護に関する社会的ネットワーク）	1コマ	
14. 生活福祉情報	1コマ	
15. シニアライフを楽しむための生活の管理	1コマ	
合計		15コマ
授業単位数		1

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援Ⅱ	
実務経験	管理栄養士として事業所等での実務経験	
対象学生	総合福祉学科 2年	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	衣食住の「衣」「食」を実践的に学習する。	
授業の到達目標	「衣生活」および「食生活」に関わる実践力を身につける。	
成績評価方法と基準	授業態度、出席状況、安全に演習へ参加することが出来るかを、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「生活支援技術」中央法規出版      その他資料は都度配布	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 被服について	1
	2. 繊維について	1
	3. 布の織りについて	1
	4. 繊維の原料について	1
	5. 洗濯について	1
	6. 裁縫実習（まつり縫い、ボタンつけ、布小物制作）	3
	7. 調理実習①	2
	8. 調理実習②	2
	9. 調理実習③	2
	10. 調理実習④	2
	11. 調理実習⑤	2
	12. 調理実習⑥	2
	13. 調理実習⑦	2
	14. 調理実習⑧	2
	15. 調理実習⑨	2
	16. 調理実習⑩	2
	合計	30
	授業単位数	2



## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	障害者支援論	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	多様な生活課題への専門分化された対応に関する知識を習得しつつ、地域社会での協働した課題解決に向けた取り組みを体系的に考える。	
授業の到達目標	障害者総合支援法等の障害支援法規の体系的理解と、現在の生活支援の課題及び解決するための取り組みを学習し、基礎となる倫理観や視点を理解する。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行う。	
使用教科書・教材・参考書	社会福祉学習双書2019「障害者福祉論」	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		
		コマ数
1. 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想		1コマ
2. ノーマライゼーションとリハビリテーション		1コマ
3. ICFの特徴		1コマ
4. 障害モデル		1コマ
5. 障がい者制度の目的		1コマ
6. 障害者の実態		1コマ
7. 障害者の生活実態		1コマ
8. 障害者をめぐる基本的な法律の概要		1コマ
9. 障害者総合支援法とサービス体系		1コマ
10. 障害者の福祉・介護ニーズ		1コマ
12. 他職種連携・ネットワーキングの実際		1コマ
13. 身体障害者への支援事例		1コマ
14. 知的障害者への支援事例		1コマ
15. 精神障害者への支援事例		1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ピアヘルパー	
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	カウンセリングの基礎知識の取得を通し、介護職に必要な情報収集・アセスメントを含めた様々なコミュニティで活用し、積極的な実務活動への能力を高める。	
授業の到達目標	日本教育カウンセラー協会主催「ピアヘルパー」検定試験に必要な知識の習得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	一般的な心理学概論の知識等も学習する。積極的に興味をもてるよう関心を深めておく	
使用教科書・教材・参考書	日本教育カウンセラー協会編集「ピアヘルパーハンドブック」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 導入・構成的グループエンカウンター	1 コマ
	2. カウンセリングの定義と略史と必要性	1 コマ
	3. カウンセリングの種類	1 コマ
	4. ピアヘルピングと近接領域の関係	1 コマ
	5. ピアヘルピングのプロセス	1 コマ
	6. ピアヘルパーのパーソナリティ	1 コマ
	7. 最近のカウンセリングの動向	1 コマ
	8. ピアヘルピングの言語的技法	1 コマ
	9. ピアヘルピングの非言語的技法	1 コマ
	10. 対話上の諸問題への対処法	1 コマ
	11. 問題の対処法	1 コマ
	12. ピアヘルパーの心がまえ	1 コマ
	13. ヘルピングスキルの上達法	1 コマ
	14. 各問題と留意点	2 コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	福祉用具専門相談員講座	
担当教員の実務経験	介護・看護・理学療法経験	
対象学生	総合福祉学科 健康福祉コース2年生 介護・医療事務コース2年生	
授業時間数・単位数	34 コマ	2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	高齢者が尊厳を保持し住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、個別ケアマネジメントに基づいた福祉用具の選択・計画能力を身につける。	
授業の到達目標	「福祉用具専門相談員」として必要とされる知識・能力を身につける。	
成績評価方法と基準	各コマの達成課題の合格及び、授業態度を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行うとともに、課題の作成を行う	
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人シルバーサービス振興会編集「新訂 福祉用具専門相談員研修テキスト第2版」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 福祉用具の役割	1コマ
	2. 福祉用具専門相談員の役割と職業倫理	1コマ
	3. 介護保険法等の考え方と仕組み	2コマ
	4. 福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律	1コマ
	5. 介護サービスにおける視点	2コマ
	6. からだとところの理解	3コマ
	7. リハビリテーション	1コマ
	8. 高齢者の日常生活の理解	1コマ
	9. 介護技術	4コマ
	10. 住環境と住宅改修	1コマ
	11. 福祉用具の特徴と活用	5コマ
	12. 福祉用具供給の仕組み	5コマ
	13. 福祉用具サービス計画の意義と活用	6コマ
	14. 事例演習	5コマ
	* 指定時間数を満たすため、上記コマ数を調整し増やすことがある。	
	合計	34コマ
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活とアクティビティ	
担当教員実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科 2 年	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	アクティビティの意義を理解し、「いきいき」と快い体験しながら生活の活性化支援の在り方・実践方法を学ぶ。	
授業の到達目標	アクティビティがQOL（人生の質、生命の質）に影響を与え、尊厳と自立を尊重することにつながることや支援の方法が理解できる。	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「改訂アクティビティ・サービス ―心身と生活の活性化を支援する」 中央法規出版 他	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. アクティビティサービスとは何か ～アクティビティ・サービスとは	1
	2. アクティビティ・サービスの効果	1
	3. アクティビティ・サービスの対象	1
	4. 生活支援学としてのアクティビティ・サービス	1
	5. アクティビティ・サービス計画の基本的考え方	1
	6. アクティビティ・サービスプログラムの計画上の留意点	1
	7. アクティビティ・サービス計画の具体的な立案方法	1
	8. アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の基本について	1
	9. アクティビティサービスの実践 ～日常生活場面でのアクティビティサービス	1
	10. アクティビティサービスの実践 ～非日常生活場面でのアクティビティサービス	1
	11. 事例演習①特別養護老人ホームにおける個別支援	1
	12. 事例演習②通所介護の個別支援	1
	13. 事例演習③在宅の個別支援（訪問介護）	1
	14. 事例演習④介護老人保健施設の行事（集団支援）	1
	15. アクティビティサービスと介護過程	1
	16. 体験活動を通じた支援方法の修得 （物づくり、浴衣の着付け、絵葉書、おやつ作り、外出 等）	15
	合計	30
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援ⅢB（利用者に心地よい介護技術）	
実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科 健康福祉コース2年	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	実務者研修での学習を振り返り、演習形式にて介助者・利用者役を体験的に学習する。	
授業の到達目標	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力の引き出しを行うとともに、適切な介護技術を用いて、安全な援助技術を習得する。	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	利用者に心地よい介護技術～「新感覚介助」というアプローチ（中央法規出版） 他	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 利用者に心地よいサービスとは		1
2. 感覚と介助		1
3. 視覚と介助		1
4. 聴覚と介助		1
5. 触角と介助		2
6. 重さと介助		3
7. 軽度者の移乗介助 —手足を活かす技術—		3
8. 中等度者の移乗介助 —動きをつくる技術—		3
9. 重度者の移乗介助 —骨肉を活かす技術—		3
10. 現場ですぐに応用できる事例 ①		3
11.                   "                   ②		3
12.                   "                   ③		3
13.                   "                   ④		3
	合計	30
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	健康予防管理専門士資格講座	
対象学生	総合福祉学科 健康福祉コース2年	
授業時間数・単位数	30 コマ	2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	健康予防管理専門士試験に向けて学習を進めるとともに、未然に病気を防ぐ環境づくり・体力づくり・生活づくりを学びます。	
授業の到達目標	健康の保持と増進を進める具体的な方法や技術を身につける	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「健康予防管理専門士試験 公式テキスト」一般社団法人総合ケア推進協議会	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
健康予防管理・指導の基礎知識 ① 健康の定義、維持・増進・予防 ② メタボリックシンドロームの定義・診断基準・対策 ③ 生活習慣病と生活習慣・食事 ④ 疾病構造の変化 ⑤ ライフステージと健康（成人期・壮年期・老年期）	3	
健康づくりの基礎知識 ① 栄養と栄養素 ② 喫煙と健康 ③ アルコールと健康 ④ 生活習慣病と運動	4	
健康づくりの実践 ① 食事バランスガイド ② 日本人の食事摂取基準2015 ③ 食品標準成分表 ④ 糖尿病食事療法のための食品交換表 ⑤ 嚥下障害の基礎知識と食事 ⑥ 高齢者の身体的特徴と介護予防 ⑦ たんぱく質・エネルギー低栄養状態の基礎知識および栄養と予防 ⑧ 保健機能食品 ⑨ サプリメントの基礎知識 ⑩ 薬剤と食品成分との相互関係	10	
運動による健康づくり ① 日本人の健康と国の健康増進対策 ② 健康づくりの運動とは	2	
生活習慣病と予防の知識 ① 肥満症の基礎知識および治療と予防 ② 死亡肝の基礎知識および治療と予防 ③ 高血圧症	11	

④ 脂質異常症	
⑤ 糖尿病	
⑥ 慢性腎臓病 (CKD)	
⑦ 動脈硬化	
⑧ がん (悪性新生物)	
⑨ 骨粗鬆症	
⑩ 高尿酸血症・痛風	
⑪ 生活習慣病	
合計	30
授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	運動実技Ⅱ	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	介護・介護予防としてデイケア、デイサービス、介護老人保健施設、フィットネスジムなどでのトレーニング方法他、とその理論を理解できる。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エクササイズを通して高齢者の健康保持・増進・体力の向上について理解する。</li> <li>2. 運動・スポーツを通して集団で運動することの楽しさと意義を体験する。</li> </ol>	
成績評価方法と基準	出席15%、安全に演習への指示ができる80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理を万全にしつつ受講する。	
使用教科書・教材・参考書	宮下智「レッドコード・グループエクササイズ」三輪書店 NHK学園「スポーツリーダー養成講座」	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
	<b>授業計画（内容）</b>	<b>コマ数</b>
	1. 高齢期の現状（身体的、精神的、社会的特徴）とトレーニングの留意・注意点	1コマ
	2. 健康増進に関する多様な方法と指導計画	1コマ
	3. 介護場面で実際に行われているエクササイズ(座位でのグループエクササイズ)	1コマ
	4. 介護場面で実際に行われているエクササイズ(立位でのグループエクササイズ)	1コマ
	5. 介護場面で実際に行われているエクササイズ(健康増進グループエクササイズ)	1コマ
	6. 介護場面で実際に行われているパワーリハビリ	1コマ
	7. 体育実技（バスケット、テニス、マット運動、トランポリン、ゴルフ）	9コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座Ⅱ	
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	就職に向けた自己理解、職業指導、事業所研究、就職面接対策等を通して、福祉関係事業所へのマッチング及び就職対策を行う。	
授業の到達目標	自己覚知を基に、自ら就職活動を主体的におこなえる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート提出80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各就職指導対策の実施ができる準備を行う（就活用用品等を揃える）	
使用教科書・教材・参考書	各授業中にプリントを配布し指示	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1.就職ガイダンス	1 コマ
	2.福祉職者として必要となる自己理解	2 コマ
	3.福祉専門職者の役割及び連携	1 コマ
	4.身近な福祉関係事業所・施設の把握	1 コマ
	5.身近な福祉関係事業所・施設の役割理解	2 コマ
	6.就職面接の実際	3 コマ
	7.福祉関係職者に必要となる倫理観・価値観	1 コマ
	8.履歴書、お礼状の書き方	1 コマ
	9.面接対策応答検討	1 コマ
	10.就職面接会参加	1 コマ
	11.ふりかえり	1 コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1



## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理概論Ⅱ（日商PC検定 データ活用3級）	
実務経験	複数法人での新規企画への事務経験等	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [      ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [      ]	
授業の概要	情報ネットワーク社会の急速な進展により、ワークスタイルが大きく変化する中、企業実務等における求められる業務データの処理能力、およびネットワークの利活用による事務能力等に関する基礎知識技術を習得する。	
授業の到達目標	日本商工会議所主催・日商PC検定 データ活用3級の取得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	初心者はタイピングのスピードをあげる。	
使用教科書・教材・参考書	FOM出版「よくわかるマスター 日商PC検定試験 データ活用3級（Word2013対応）」 「よくわかるマスター 日商PC検定試験 知識科目公式問題集」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 検定試験概要・必要データのダウンロード		1 コマ
2. 取引の仕組みと業務の流れ（見積書、発注書、請求書、領収書）		1 コマ
3. 財務諸表（貸借対照表、損益計算書）		1 コマ
4. 基本的な計算処理（四則演算、関数）		1 コマ
5. 業務で使用する計算処理（単純集計、クロス集計）		1 コマ
6. 業務データの分析		1 コマ
7. [演習]表の作成（表示形式の設定、保存）		1 コマ
8. [演習]データの集計（ピボットテーブル、データの並べ替え）		1 コマ
9. [演習]データの集計（関数による集計）		1 コマ
10. [演習]グラフの作成（凡例、軸ラベル、タイトルの入力）		1 コマ
11. [演習]グラフの作成（複合グラフの作成）		1 コマ
12. [演習]まとめ		1 コマ
13. [演習]第1回模擬問題		1 コマ
14. [演習]第2回模擬問題		1 コマ
15. [演習]第3回模擬問題		1 コマ
合計		15コマ
授業単位数		1